

ガッツ 石松

6月5日に開かれた「ガッツ 石松氏の講演会」（白門祭実行委員会主催）は、会場の3号館大教室がいす席どころか、階段通路にまで座り込むほどの人気となった。ガッツ氏は90分間にわたる「我が人生」と題した講演で、中大学生に強烈な人生論をインプットしたようだ。

（学生記者・峯宇 樹）



超満員の会場

心の改革ガッツポーズで説く

ガッツ氏はボクシングWBC世界ライト級チャンピオンとして連続5回の防衛に成功。引退後は映画、ドラマ、舞台で個性派俳優として活躍しているほか、CMタレントでもなくはならない存在となっている。割れんばかりの拍手に迎えられて壇上に立ったガッツ氏は、最初に「青春は何も考えないことだ」と、非常にインパクトの強い言葉で話を始めた。「悩むべきが青春」と考える私にとっては意外な一言だった。しかし、ガッツ氏は「何も考えずに大学に来て、日々を過ごすことが青春。大いに結構」と肯定する一方で、そ

の中で「何か」に気づくことも、また大切なのだと学生に伝えようとしていた。

その「何か」とは、例えば「縁」であるという。世の中には大・中・小という3種類の人間がいる。大物になる人物は、自分が周りで「縁」に出会った際に見逃すことなく、すべてを自分のものにできる人というのだ。穏やかで満ち足りた学生生活の中でこそ、「何か」を見極める審美眼を磨くチャンスだと力説した。その都度、笑いの渦に包まれる。そのまま話せば、お説教のような話でも、ガッツ氏にかかると夜のバラエ

ティー番組のように、たちまち学生の興味を引きつけてしまうようだ。

また、彼は幾多の試合を通じ、負けるたびに一つ一つ学んでいったと語った。つまり、負けをマイナスではなく、さまざまなことを学ぶチャンスと考える。まさに、「ガッツ流・心の改革」である。「人生をプラス思考で、いまをいかに生きるかが大事なのだ」という言葉は当たり前前のことのようにだが、ボクシング世界チャンピオンという偉業を成し遂げた者の言葉だけに、私たちの心に奥深く響いた。

講演のあと、質疑応答の中身が濃

かった。「ガッツ流の恋愛の仕方は」という学生の質問には、「果報は寝て待てではなく、それを分捕るという考えで」と、少々過激な言い回しながら、「自分の方から気持ち伝えなくては。それでもダメなら自分を磨き直すことだ」というアドバイスを与えてくれた。

また、「日本の景気はどうしたら回復するか」に対しては、「携帯電話を廃止にし、電話代を消費に回せば」という提案から、「子供が百円でジューズを買い取るよう、内税にするべきだ」など、かつての自民党の候補者らしい一面もぞかせた。

11月5日、52歳の誕生日

この講演会当日に52歳の誕生日を迎えたガッツ氏は、主催団体の学生側からバースデーケーキをプレゼントされ、「Happy Birthday」の大合唱に感激。例の力一杯の「ガッツポーズ」で応えてくれた。「これからも多くのことにチャレンジしていきたい」という強い意志とともに、常にプラス思考で「いまを生きる」ガッツ氏が発したメッセージは、学生の心に印象強く残ったに違いない。